

電気電子情報関係学会四国支部連合大会原稿執筆ガイド

Manuscript Preparation Guide for the SJCIEE

電気 太郎¹ 四国 次郎² 連合 三郎³

T. Denki¹ J. Shikoku² S. Rengoh³

(電気大学¹, 情報大学², 通信高等専門学校³)

1. 原稿の構成

本稿は、電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会の原稿執筆について述べる。以下のレイアウト、書式に従わない原稿については返戻されることがあるので注意。

1.1. 全体のレイアウト

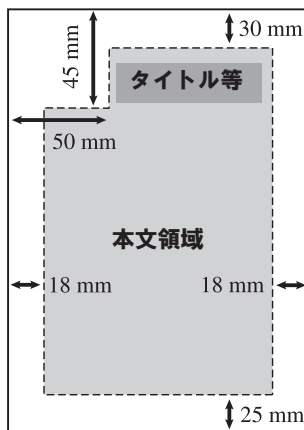


図1 余白

原稿サイズ、分量：原稿はA4縦置きとし、分量は1ページを越えてはならない。

空間・余白：講演番号等を挿入するため、左上端に50 mm × 45 mmの空間を設けること。上下左右の余白は図1のとおり。空間・余白内にはヘッダやフッタ、ページ番号などは入れないこと。

タイトル：タイトルは本文より大きい文字を用い、上記空間を避けて記述する。日本語論文の場合は必ず英

語タイトルを、日本語タイトルの下に併記する。

著者名：タイトルの下に書く。日本語論文の場合は必ずローマ字の著者名を併記する。その書式は“名のイニシャル”+ピリオド+“姓のフルスペル”とする。

所属：著者が一人の場合は、“氏名(所属)”のように、著者名に続けて所属を書く。著者が複数人の場合は、氏名を書き、行を改めて所属を書く。このとき、全ての所属を一組の全角括弧“()”で囲み、右肩上付きのアラビア数字でそれぞれの所属を対応させる。

1.2. 本文書式

- 本文は二段組とし、10 ptのフォントを使用すること。書体は、和文であれば明朝体、英文であれば Times Roman 系フォントを使用し、見出し等は和文であればゴシック体、英文であれば bold face を用いる。MS Word を使用する場合、英文について等幅フォントが適用されないよう留意すること。
- 和文句点は「.」読点は「,」で、それぞれ全角で記述する。
- 全角英数字、半角カタカナは、特に使用する必要がある場合以外は避けること。

1.3. 参考文献書式

文献は、本文中で [1] のように出現順に番号で参照し、論文末尾に参考文献リストを構成する。また、リストの見出し「参考文献」には節番号を振らない。リスト記述例は本稿末尾を参照のこと。

2. PDF 作成

投稿された原稿は、論文番号、ページ番号、会議名称などが PDF レベルで追加加工された上で、論文集に収録される。PDF のスクリーン上の見栄え、印刷刷り上がり品質について、以下を参照のうえ、著者自身で調整すること。

2.1. ファイルサイズ

論文集配布の都合上、原稿のファイルサイズ上限は1MByte 以内とする。2.3 節にも関係するが、上限を超過するようであれば、データの適切な間引きや、画像品質調整を検討すること。

2.2. フォントの埋め込み

原稿内の全てのフォントについて確実に埋め込むこと。たとえば Acrobat ではファイル→プロパティ→フォントと進み、全てのフォントについて「埋め込みサブセット」となっているかを確認する。埋め込みができていないフォントについては、PDF 閲覧・印刷環境によっては文字化け、文字抜けが発生する可能性がある。特に図表内で用いられたテキストについて注意のこと。

2.3. 画像等の解像度

画像等は 600 dpi 以内で高品質な仕上がりになるよう調整する。A4 刷り上がりで十分視認性を確保すること。アンチエイリアシングやジャギーの発生に注意すること。

2.4. セキュリティ設定とハイパーテキスト

PDF ファイルにはセキュリティを設定しないこと。また、ハイパーテキスト、しおり、メタデータは、2 節冒頭に述べた加工により削除・毀損されることがあり、加工後の PDF においてはそれらの完全性は保証されない。

参考文献

- [1] 電気 太郎, 四国 次郎, “DC/DC コンバータを用いた形態素解析の一考察,” 電気情報未来研究論文誌, No. 4, pp. 125–128, Nov. 2020.
- [2] S. Jaycie and I. Eyeyeah, *Beyond the DX*, Virtual Publisher, New York, 2019.
- [3] 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, <https://sjciee.org> (2021 年 5 月 15 日 参照)